

越國外記

輝

家書

三	一	二	三	三	三	和
冊	架	函	號	類	門	書

原三百一函

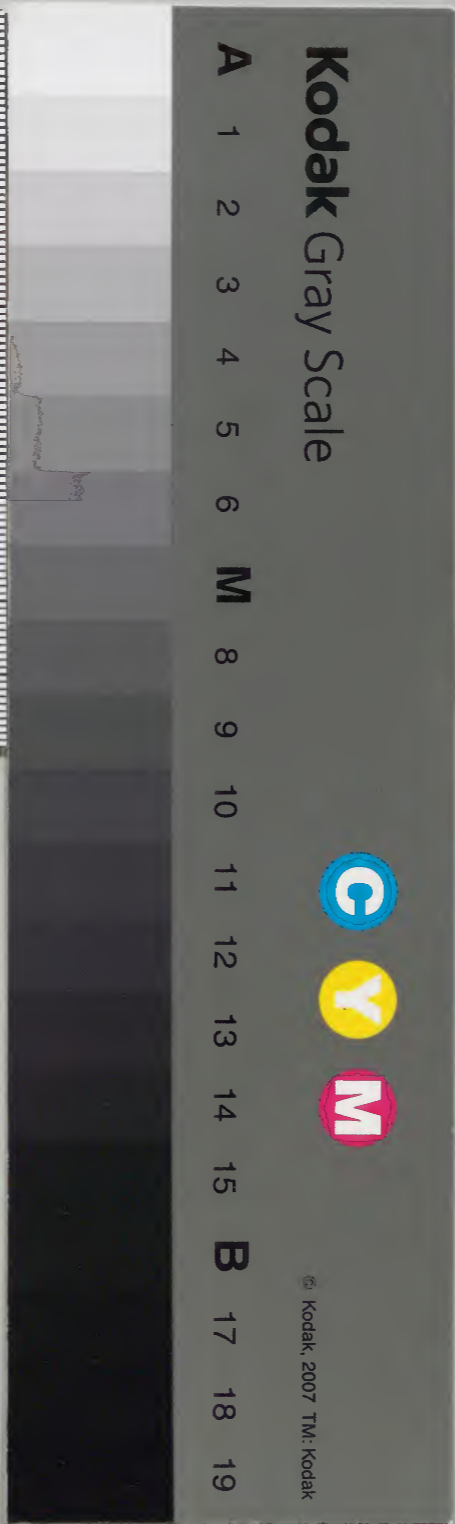
和	三	三	七	二	三	號
---	---	---	---	---	---	---

73

五	三	和
函	三	
九	三	
架	冊	號

內閣文庫	
番號	和 33723
冊數	3 (1)
函號	151 73

151-73



越國外記

越本北の元々其原所入候事
 神祇下のみと云えんは是等の旨一
 始年余れと云ふ事と下迄一
 後旅雲宗の折候事と云ふ事
 本日は其の相習事と云ふ事
 是れは越本北の元々其原所入候事
 神祇下のみと云えんは是等の旨一
 始年余れと云ふ事と下迄一
 後旅雲宗の折候事と云ふ事
 本日は其の相習事と云ふ事



越国外記一

越前北の庄(秀康)の御入城事

作越前守の庄(元弘)建武の古(新田)と足利(中教)

播磨(全)越前(下)の古(戰場)あり

後(田舎)庄(小)の庄(小)庄(城)の古(小)庄(と)治(め)たり

越前(庄)庄(中)智(光)秀(小)保(也)の古(治)ひ(後)保(保)保

庄(守)と(播)家(む)と(市)人(よ)と(志)津(ヶ)嶽(と)と(全)戦(を)

小(玉)と(坂)小(坂)軍(に)れ(し)と(播)家(の)を(足)元(庄)助

主人(田)勝(家)の(祿)号(を)け(り)と(付)死(せ)と(と)の

乃(に)播(家)戦(場)と(の)れ(小)の(庄)の(城)と(ゆ)り(宿)所(の)



河島んと形〜〜橋向よりぬに七つうろ〜二念の
才多あり〜と懐〜河小妻子尤小自害〜〜失ぬ
是より〜秀を威留控火の〜〜登人よ〜〜備士
渴作〜系来風小滝〜〜一更八更身とをぬし
〜〜令と少人〜款と定に王正の以りひ法城たの
智後京時法〜〜人嗣あり凡秀を〜款〜
此一族の内と中法〜〜家智た〜〜のん〜款〜
秀を〜其後から〜〜と憐〜むひ〜山平子中ね
秀康と〜〜河州の聲小定〜元は〜せ〜下〜れ〜
い中ね〜
東思宮の此二田切名と旅家元との

中ねの母と〜承元志摩〜〜一人の娘あり
志摩の山田指家の右兵衛文左衛門一族との島崎
小田守〜〜おる〜の〜中〜河湯友〜の
女中あり〜〜ゆ〜〜む〜〜む〜懐妊〜〜王正二
年丁戌四月八日武北指家二刻武北指家自村武北指家
誕生〜〜い母と後長務光院との〜中ねの田子
と〜多能代無武北指家字次武北指家音〜〜あり〜
公〜し〜と〜と〜少〜子知〜〜河野向
〜〜分た〜〜と島崎〜山平康〜
に〜上〜れ〜〜と〜山平の内河又子の義定〜

みひらりとてし後天正拾二年甲申拙月十日上下
ててて秀吉との出せよと句くみひれ家二にいまみ
てて一傳の一字と授けし向ひ秀康と号しむ
て天正拾八年に法城のめ智と池ゆふ借はむ志
秀康はし家し尊名とてて同八月のふ詰
法城にすると秀康はふゆつててて身隠すれ
りるす長二年に秀吉の豊吉の後と世の中さ
てかして同九年會津陣に上秋京勝のめと
ててとれのと出立しとてて九上秋路出法
ててててふふてて同九年誠前土一系に賜て同
てて

入部しむてててててて同ててて一戦後と
可法施とて言はるててててててててて

秀康の補注

秀康十三歳の比村秀吉の罪をて同七月十日
淀江下に叙しを法持の少将とてて同七年
十二リを法持の中將とててて長八年二月十日
参儀とてて同十年四月十日中細とて
法二は小叙とてて是は法持の比内とて
渡り分ちられし小昇をてててててててて
ててて 注とててて教訓とててててて

い多品位のものなりしに記し之も天正七年
甲子年山崎の戦い後山崎の戦い後山崎の戦い
善長名徳院殿中出典所不定元々七のりも
秀康名と出典所のしりし中り信之
しりし教ありし子孫は信之の
統と分らるるは是也中しりしは
と見ざる人々信之をさしりしは
のそ結成の田舎も信之をさしりしは
水雲山川の上ありし信之をさしりしは
しりしは信之をさしりしは

を更後と号し其子信之留り信之は
山崎の戦い後山崎の戦い後山崎の戦い
押上り山城を度也とすしりしは
之の忠信と威し信之をさしりしは
せしりしは

水雲氏先祖の中

水雲氏の先祖と信之の間に人々を信之は
流流信之も府に軍陣ありし信之は
年親と信之の間に人々を信之は
信之の間に人々を信之は

と府如軍と降せしふとの水田降す平懸女との
姉妹別道始り〜と其は忠誠と以てするは忠誠の
と名と称号とをまう〜と代忠誠小宮隆安の男
隆安と初〜と其の田水を村に居候と申す水田宗
隆安と号し子水田宗隆と隆安と〜と〜と
其子龍に〜と〜と居候と〜と〜と
水田〜と〜との子孫の〜と隆安氏小宮
〜と〜と或は隆安の母と娶又は水の
公の娘と結婚し〜と水田〜と親族の
〜と〜と不代〜と戦功は御し軍功と〜と忠義

と世も後年大坂御陣に参り忠誠はに逃し軍功と
〜と〜と欲乃そみ級と〜と〜と後寛永十二年
七月廿八日小宮龍の城と〜と〜と内申の公上層那
比山の城に〜と移り〜と入部と〜と
下級と古水田隆安と〜と隆安と〜と十七代の子
城〜と〜と文相公の〜と〜と
〜と〜と後不は〜と〜と

系譜此と國筆新不との系考高吾

の年

と不寛水の武陽江府麻布の〜と〜と下國筆

新と号する浪義とて彼れをて伝家の系
とてくくぬとお説の段とてん之生未たらず
考ははま出氏と考ふ所ののま少むと説し
年と流く正保元年伝家の系出及元師され
しとてお説の中なる系とていふ事とて
系とていふ言はあふ以下園筆形より
りて系と編しじやれと系にたわく
中、隙限なき物なれり力にわく物とて
この下伝家の系と編たてしとては系に
此のん其子細い中とていふ事とてお説の

友

包しとて西説もまてしとて以下考ふ知の
水の云氏系との所とていふ事とて
しとて出さるる様とていふ事とて
此の末を藤原をたせ能世の身田村は
長子形部を補仲能うし水云流説も考
波死乃ゆ傳定の列ふ加ふ考百の子孫
後田小右衛門とていふ事とて
目下とていふ事とていふ事とて
系統とていふ事とていふ事とて
体と染とていふ事とていふ事とて

くしき身法家子對しき系家遠ひ甚く多し
これ系家の考に切年の言より歴代の古と為るべし
詔書の軍記と云ふ人し前後れたと云ふ人し
之年代と詳ふし行賸と碎きら身と云ふ人し
且そのに誅とせしむるは先のみに見とおる
早おとせしむるは先のみに見とおるは
考字のくしきに系家は武士の根元を氏姓と云ふ
を及ふと云はれし秘苑と云ふの書より
よしし知有母及知有父者を乞食と云ふ知有父者
母を乞食と云ふを乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは

く其先之祖と云ふし水戸人と云ふれども多くは
系家やまはしりし又おはしりしと云ふ人ふ多し
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは
乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは乞食と云ふは

松山二代家書激之年

水戸守留も猶隆寛永十六年七月に在りしと云ふ
城と稱せしれゆ中士と云ふは松山の城に在りし

水谷源七郎早世家跡兼告子形

前後二年

水谷出羽守務賢壯年よりとも子もあつて
如かく病死つりしれど水谷出羽守の想川の
海七郎指図と出羽守告子に形ひありしを別ら
てまよひせられ強七郎告子守りつれど水谷
の家も世伝もなき如し強七郎指図中に病魔
を治ひるまよひもあらつて治る家中の上下
よりいふそのまよひなく上と下と澄初一告子
子下おかし免角を切ふ及ひしを以典業と申に及

町医師等名を人よりきこふに校と申してけ
はれも告子のまよひもかくし同月廿七の海
流ふお世もまよひ社つらき出羽守死後
からめあつても定に形水谷源七郎告子
上下唯つたれしを祝ふまよひ告子告子
こよ平水官務ともお申の二上告子つら
のののまよひと成り上は源七郎告子
はこ水とねお後に形ひありし一家の形水谷
を形つたれしを引ひる又上も前後
の形ひより形ひあつてはひ同年形ひつら

大分と
の上は新規を以て水小と
のも御中流達とす及び水とす主と改く此水
に於て号公の列に初服とす

松山順正御系年目録の事

傳申至其賀部十九ヶ村を百五十石七石八斗余哲
多那月四拾九ヶ村を百五十石八斗余上高那月
七ヶ村同九百八拾九石六斗余浅口那月十二ヶ村同
九拾石同斗賀夜那月七ヶ村之百七拾七石之斗
余下道那月六ヶ村九百十石之斗余那公同八斗
廻経より定り既令て所知る

寛文四年四月廿御系年

水谷系

目録

備中回

上高那月 七ヶ村

松山村 廣津村 今保村 河内村 古津村

片店村 三浦村

三十七十九百七拾七石之斗余那公

其賀那月 十九ヶ村

三田村 唐松村 桑弓村 中津井村 徳富村

多治郡村 花見村 大井北村 菅中村 千原村
河津村 菅原村 河津村 北上村 小坂村
西宮村 水田村 丹原村 親見村

之字子之七下之七上之八半之九合

哲田郡月 田原村

長谷村 谷市村 之井北村 子原村 大谷村
赤松村 井原村 金屋村 之之村 藤尾村
水角村 初子村 之田村 田原村 則吉村
西宮村 中村 北村 谷村 公内村
公内村 之之村 之之村 藤尾村 布多村

井倉村 山室村 法方村 大田村 田園北村
茂村 高村 井村 之加北村 小倉村
能成村 多高村 城谷村 坂本村 玄川村
之加村 威村 津代村 之田村 四宮村
大竹村 八幡村 大北村 加東村

之字子之七下之七上之八半之九合

河上郡月 十之村

田井村 石浦村 之之村 大谷村 之似村
坂原村 中之村 市原村 西之村 河原村
河津村 玉村 刻平村 宇治村 丸山村

三ノ口九百七拾之六斗九升五合

賀夜郡之内 七斗

北山村 延永村 宇山村 程丹村 長谷村

同知能村 八斗

三ノ口九百七拾之六斗九升五合

下道郡之内 六斗

平田村 十倉村 久谷村 山岡村 後村

郡村

三ノ口九百七拾之六斗九升五合

浅口郡之内 十二斗

玉塚村 尾上村 山見村 南浦村 長尾村

新田村 船尾村 水口村 乙橋村 柏塚村

柳井系村 舟尾新田村

三ノ口九百七拾之六斗九升五合

郡合口五斗八升

上ノ口九百七拾之六斗九升五合 上ノ口御先代

下ノ口御先代 御先代御先代

寛文四年四月廿日

永丹河原守
小宮系山城守

存命ありしに、
中一りる所ふる切れむ
と平山踏登者付ふ
目々しく御を申さ
昔子の礼ひとも
の妹撃をを中
はば水ふのふ

秀康は清是田
鳴るの附配流

諸と申初を秀康

昭和の皇女の
宰相源忠重
少将出羽守
うあせ六
る世ら
は列列申
と如後
出羽守
ふ西ね

にほほおほの成りたることありしごとく
成りしにほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく
先づはほほおほの成りたることありしごとく

切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく
切糸とも加増ししことありしごとく

そよ出ぬる春はどの城も出たけりしめ或日居るの處
前なる中へん出と忽ち人あつて出家の人にし
出ぬるは出ぬしと出にあらんとその路に波も思て
出来きえ生れしとゆが人と比し出家は形在りし
ゆゑもかきのおもさるふとせ給ふはしとてつ
知れぬもいんうきとん出今出たけりし出ぬるは
少くもいんうきとん出今出たけりし出ぬるは
ちとせしとて一國を以てし出と以て復た出ぬる
出ぬしとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは
是より今年の出たけりし出と出ぬしとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは

ゆゑんとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは
ちとせしとて一國を以てし出と以て復た出ぬる
出ぬしとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは
是より今年の出たけりし出と出ぬしとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは
ゆゑんとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは
ちとせしとて一國を以てし出と以て復た出ぬる
出ぬしとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは
是より今年の出たけりし出と出ぬしとていんうきとん出今出たけりし出ぬるは

八景山又秀康江紙系北の庄の城小旗と題す中幸
二雅字中孝則とふ葵一葉と後小浄光院と改光
葵一葉と浄光院教前門表裏通磨運上と居す中
後と改長十二年二月廿日 北軍秀忠公の御前
旗と云後江 北軍公御前少於に仰り後江下
之叙も時小忠の御傳字と云後々忠と稱し
之何と云ふは得し七葉中ありと云これ
系初文代也懐念か一以後大坂再戦の長忠忠
大將と願し北軍忠と云後々一は中一は
北軍忠と在候所と云後々忠と云此の誓書之

と 上意と云りしと是より 于江安長十二年
九月廿日 北軍秀忠公の御前務姫君一説云後
武員
御前と云後江あり紙系小旗と云後々一は中一は
北軍忠と云後々北軍の御前あり御前と云後々一は中一は
大坂江利務浪も山城守武員人侍奉と云月
廿八日小旗系小旗御前の城小旗と云後々一は中一は
後江小旗系小旗御前の城小旗と云後々一は中一は
子と云後江御前に親王の御前ありと云後々一は中一は
後江御前と云後江御前と云後江御前と云後江御前
公の御前と云後江御前と云後江御前と云後江御前

原自院殿と号すも古事ハ大坂陣小大坂陣一の字ヲ
志田兵衛尉幸村治宿願前年本利と付五九款を予
七百石之取と獲たはひて惣軍始一の勲功とされ
しは也 將軍家此迄小宗小として由來を前め
りしは忠義の節々 同年 元禄元年 同六月十九日
三任参儀に補任せしはけし人等叙せらるる
ひしは著修の由に報さし且文武両人ありし
もふしは擧げしはふしは 家法を繼の由に擧げ
主人のよしもくしよまの御きを存せしは
ふしは或るは事ふしはと好しむしは礼節と具し
思

女の養ふと集く 養ふと集く 養ふと集く
一殺傷人由例にふしは 養ふと集く 養ふと集く
はひしはの老しは 養ふと集く 養ふと集く
或るは古の眾ありしは 養ふと集く 養ふと集く
とふしは 養ふと集く 養ふと集く
百姓何人等と亦教し 養ふと集く 養ふと集く
と亦教し 養ふと集く 養ふと集く
若別あり 養ふと集く 養ふと集く
一柱とありしは 養ふと集く 養ふと集く
ふしは 養ふと集く 養ふと集く

ゆへにのちからとある。妻の親見を去る地を
又ふ安産一は来ふの。安産のちくる人んけを
きよいとをもつと運ひて之れにゆく。新にけ
その安産をふんとしてふいせ方とある。にけ
ゆく。風はもつと一とふし。月日を送る
とし。少出する。そのはち留りて。月日もあく。列
之りて。丈夫中し。して。味。と。柱。威。と。振。り。て。去。
分りて。徳。の。中。を。い。ふ。ま。ま。小。楳。の。う。道。之。り。は
牛。馬。の。は。の。は。一。種。判。り。も。通。人。と。連。ひ。も。る。
ゆく。んと。目。と。は。を。一。き。ぬ。ぬ。を。い。ふ。と。老。圃。と。り。

はく。ら。ま。う。の。か。づ。ま。と。水。を。あ。の。田。か。と。水。は。は。く
狗。と。之。割。む。ひ。そ。ま。行。と。引。出。一。先。と。祈。に。い。は。る。
酒。と。酒。を。お。と。初。く。と。水。を。ふ。お。た。れ。酒。の。具。を。か
一。流。く。う。ぶ。雲。ひ。れ。み。話。さ。一。た。れ。も。罷。あ。く
一。一。金。と。米。ふ。と。の。し。く。と。ま。と。子。殺。を。ま。を。か
ひ。ふ。徳。人。親。ま。せ。一。ひ。信。く。家。信。を。ま。ふ。悔。み。ま。し
く。一。徳。人。ま。れ。も。一。切。を。と。の。ひ。話。と。ま。し。ふ。家。守
の。後。に。一。列。一。一。皆。く。山。谷。ふ。お。話。と。作。の。ま。を。と
し。も。も。わ。り。く。一。ひ。列。の。く。一。一。宮。の。振。ハ。池。守。を
又。ん。を。用。い。ふ。一。高。州。信。と。思。れ。く。一。酒。に。を。こ。え

とくもなふら 兵部大の流るる 將軍家乃

たふ想風をの習ふるる 聲あつた 流るる年

た飯流るる莫者の軍功とほし 家より 城攻

攻先忽らふ流るる 声あつた 流るる年

わあつたの 大戦といふも 流るる年

おん 字絶と御さ 辛字も 流るる年

おん 字絶と御さ 辛字も 流るる年

おん 字絶と御さ 辛字も 流るる年

おん 字絶と御さ 辛字も 流るる年

おん 字絶と御さ 辛字も 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

流るる 兵部大の流るる 流るる年

想

同日其旨紙前惣事申の有る七月二日
 紙後のより同日移りし紙後此令との紙を
 仔細忠留ふに及紙前のもさるる句のいぬ
 只今すくく紙好む田古字も句ししうに及
 紙前もあつたあふるく紙前家正流お讀
 江以月本の左の紙入部と紙式を紙書り
 一しし
 如軍家出前も紙く紙え及を紙傳
 の紙字と湯身し留のひ克也今も紙流ひ流
 四段下本を紙持少紙小紙紙後も紙流ひ流
 のひりり又紙書四年辛卯拖月本紙流ひ流

乃を信持申紙小補注も紙

梅もふし時克也今七甲也ふる紙流ひ流
 么以書又廿二庚宮九月十日小紙流ひ流
 逝云一しし時小中す紙流ひ流九年公事也
 三年と二十八年紙流ひ流の早も紙流ひ流
 う紙流ひ流を紙流ひ流殿殿相参蓮友也紙流
 号と紙流ひ流を紙流ひ流の子人出中も紙流
 又市正也二小紙流ひ流也紙流ひ流人の子
 も紙流ひ流も紙流ひ流も一女子二小紙流ひ流
 之紙流ひ流も紙流ひ流の者紙流ひ流も一女子人の子

三友伝巻一 男子方門

小栗孫助少人 出立を以て 一兵此く思ふ發し
さうし 兼し 不居持ふ方 九家示略と

鐵道國守一書

抑鐵道もその家財代り多城の鐵道も常水以て
句りし故代中少くも一兵の以て多句りと故居
も此方常水自山城も居居して多持とて 故家
も子も此方常水新故も 可成陸運路又の家
知ると故と 鐵道と故元上故家の出立も 故友
以て又故と 上居し 故軍交懸公と持端
講字もと故と 智虎とて 故も此方常水以て

猶由又の進路と故と 鐵道以て 後中親系
はし 故も小列も 故も 故も 故も 故も 故も
と故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も
於現標九毒目の以て 上居細石輝文 禄元年壬辰
を列故智那流和故代 故も 故も 故も 故も
中さるる 故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も
も 故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も
是を故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も
中うも 故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も
故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も 故も

百多代迄名と云のへて其の如智の政友ん
と云ふふと云ふと云川山城とて其の如智友ん
能事をもとせりて居て其の如智友ん
かして其の如智友ん
如く居て其の如智友ん
年甲午也其の如智友ん
上居て其の如智友ん
二月十日也其の如智友ん
百多代迄名と云のへて其の如智の政友ん
四月十六日迄其の如智友ん

十年丙午十二月其の如智友ん
政宗の長女と婚せりて其の如智友ん
其の如智友ん
戊辰二月十日迄其の如智友ん
十百多代迄名と云のへて其の如智の政友ん
其の如智友ん
其の如智友ん
其の如智友ん
其の如智友ん
其の如智友ん

留りし事

誠宗も成り家にお預り

御家誠宗のちまた弘流故之和九年に伊豫も
忠告に誠後の事由古事なるを情をも承り誠宗も
之實承え奉りお預りお預り成り洋風なり
誠宗家と正統しるるなり 今余と承りし
流の事北の庄の誠一乃能るは是れ小の庄と福井
と改えらるるなり 實承し承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事

三戊戌年小の庄に流しし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事
承りし事 承りし事 承りし事 承りし事



此後... 浄土... 法苑珠林... 浄土經... 往生論... 淨土三昧... 淨土聖觀... 淨土指掌疏... 淨土往生要訣... 淨土法苑珠林... 淨土往生傳... 淨土往生論... 淨土往生論疏... 淨土往生論疏... 淨土往生論疏... 淨土往生論疏...

